

民部卿家歌合 仁和元 885 年～三年四月 I

〔民部合I〕

【十卷本 尊経閣文庫蔵】

民部卿家哥合(端裏)

民部卿^{行平卿}の家の歌合、左右すはまなとしたりけり、ゐなかいへのかたをなむすま^はにしたりける、ほと、きすのこゑともしといふことをよむ

山家のかたをして

左持

一なつふかきやまさとなれとほと、きす ころはしけくもきこえざりけり

ゐなかいへのかたをして右

二あれにけるやとのこすゑはたかけれと やまほと、きすまれになくかな

左勝

三おほつかなおとはのやまのほと、きすさすかにいはぬことなためそ

(押紙)或本此歌為右歌而勝

右勝

四たれとかはことはかたらふほと、きす まつわかきくにいはてわたるは

左

五なくになとおとろかるらむほと、きす よふ人ことにありとききつ、

右勝

六しらねともこたへやせましほと、きす もつ人てふこゑをあはれと ^{本のま、} _{とことと}

左

七つきよにはてくらのやまのほと、きす ころもかくれぬものにさりける

右勝

八すむさとはしのへのもりのほと、きす このしたこゑそしるへなりける

(押紙)或本為左歌而勝

左持

九ほのかなるこゑをき、てはほと、きす なきつるかたをまつそもとむる

右

一〇さよふけぬ^てふるのみやこ^へほと、きす かへるくもちのこゑをきかせよ

左

二ほと、きすくもるのこゑはきくひとのこ、ろもそらになりそしにける

右勝

三さよふけておき^てまたすはほと、きす はつかなるねもいかてきかまし (押紙)為左歌而勝

左

三またせつる^ほことはひさしく^きほと、きす あかぬ^{て、ちな、のちのこひし}こゑ^{に、て、かへるなるかな} (四句傍記「見消」)

右勝

一四さ^よふけてたれ^かつつけつるほと、きす まつにたかはぬ^{こゑもめてかく本のま、} _(見消) ^{こゑのきこゆる}

左持

一五ほかにまたまつ人あれやほと、きす こ、ろのとかにこゑのきこえぬ

右

一六ふたこゑときかてや^{やま、し}はんほと、きす あかつきちかくなり^もぞしぬらん ^(二句傍記「し」見消「、」の右「む」)

左 (押紙)或本左勝

一七あけぬ^{には}まは^こしらねのやまのほと、きす ふたこゑとたになきわたらん (二句傍記「見消」)

右勝

一八みや(こ)いて、いつこもたひそほと、きす こ、にをむすへくさのまくらは

左

一九ほと、きすこよひはとまれかたをかの あしたのはらにかへりやはせぬ

右

二〇わかやとにこゑなをしみそほと、きす かよふちさとのゆきはてそこは (押紙)此歌為左勝

恋

左

二一のなかのつねのこひとやおもふらん なみたもことにわきていつる^を

右

三あふにこそをしからすてへいのちをは ^{つへきかな} _(見消) あはぬにわれよかへそしつへき